

教科担任制導入の成果及び課題(中間まとめ)の概要

1 教科担任制導入による成果



児童にとって

学習指導

- いろんな先生と勉強ができて楽しいと回答する児童が多い。
- 算数や国語の授業が好きとアンケートに回答する児童が増えた。
- 1学期の単元テストにおけるD層の割合が減少した。
- 学習意欲が増したことにより、わからないところを質問する児童が増えた。

生徒指導

- 多くの教員が様子を見て声をかけるので、不安が和らいでいる子どももいる。
- 学習以外の相談も担任以外の教員にできるようになった。

教師にとって

学習指導

- 1回目の授業の反省を基に2回目の授業を改善できた。
- 同一教科を複数学年で指導することにより、その教科の系統性がよくわかり、指導に生かすことができた。
- 同じ教師が複数のクラスで授業することで、指導の統一性が図れた。
- 学年部で統一した宿題を出すことができるようになった。

生徒指導

- 担任一人で問題を抱え込むことなく、多人数の教員で指導できた。
- 配慮が必要な児童に対して効果的な指導方法の情報交換が行えた。
- 児童理解が深まり、気になる子どもへの声掛けが以前にも増してできるようになった。

その他

- 教科担任制を好意的に受け止めてくれる保護者も多い。
- 担任が児童と向き合う時間や教材研究の時間が増えた。
- 出張の際も、空いている教員で授業を実施できた。
- 出張、年休の時は日課表を調整するので自習やプリント学習になることが減った。
- 昨年度より指導教科数が減ったので授業準備の負担が減った。
- 運動会の高学年での指導は、顔も分かり、指導がしやすかった。